

肢体不自由児の障害特性を踏まえたICTを活用した指導方法や教材・教具の工夫 No.4

「ノートアプリを活用して読みやすい回答を作成するための指導」
～学習の経験不足を補い、学習を自立させるためのタブレット型端末活用～

事例生徒の実態	特別支援学校高等部 3年生 ・座位姿勢の保持が困難で生活動作全般に援助が必要である。 ・視覚障害があり、拡大したワークシートやタブレット型端末・大型ディスプレイを活用する。
教科(単元名) 領域	自立活動
指導目標	添削と修正を何回か繰り返しながら、回答を仕上げていく方法を身につける。
使用した機器等	タブレット型端末 (iPad) ・ ノートアプリ (GoodNotes4) ・ プリンタ
本指導で育てたい 具体的な力	・ ノートアプリを活用して相手に読みやすく、自分には見直ししやすい文章を作成する能力。 ・ 自立して課題に取り組む態度。 ・ 読む相手を考えて文章を作成する態度。 ・ 完成期限を意識して文章を作成する能力。

指導のポイント

理解力の高さに比べ、回答の仕上がりに不十分さがみられる生徒が、自立して取り組める手段を提供されることにより、自立して課題に取り組めるようになった。

図1 対象生徒がタブレット型端末上で記入したワークシートの一例



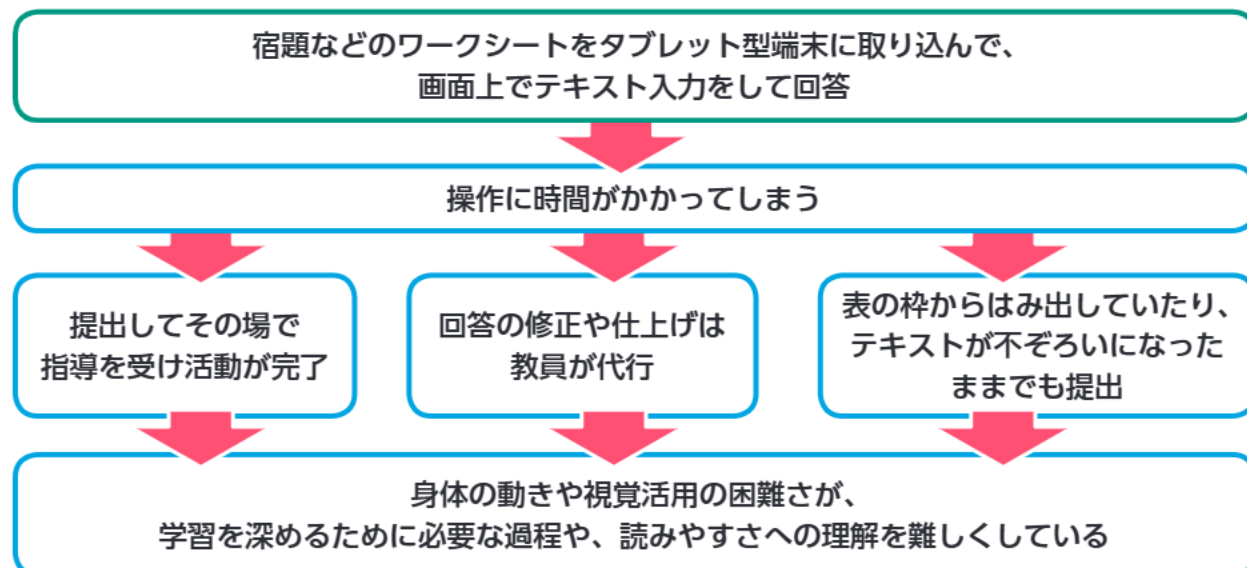
時間	活動の内容
8:10	丸亀駅に集合
8:45	丸亀駅を出発
9:15	岡山駅に到着
9:45	バス降車

ICT を活用した実践

○授業内容

校外学習の行動計画・予算書などのワークシートをタブレット型端末を活用して作成。提出・添削・修正・再提出のやりとりを進めてワークシートを完成させる。

○活動の流れ



ICT を活用した実践（続き：活動の流れ）



使用アプリ「GoodNotes4」
（バージョンは実践当時）

- PDF や写真データにテキストを入力したり、マーカーで色を付けたりすることができる
- テキスト入力的位置を厳密に設定しなくてもよい
- 修正の際に全体のレイアウトが変更されない
- 広く普及しており、活用方法や設定方法の情報が多い

枠からはみ出ないことや文頭や語順をそろえて
作成するための指導

- テキストの再編集や位置修正
- 枠に合わせて位置を整えてテキスト入力する方法
- 位置やフォントの大きさを修正する方法

完成期限に間に合うように
取り組むための指導

- 完成期限を設定し、添削と修正にかかる日数を意識させる

整った回答を作成できるようになった

「読みにくくないでしょうか」と
相手に配慮した確認ができるようになった

自分で早めに添削を受けて期限までに
完成できるようになった

自立して取り組める手段が用意され、
何に気を付けて取り組まなくてはいけなさを理解できたことで
早期に状況は改善した

生徒の変容

- 自立して取り組める手段としてタブレット型端末を用意し、気をつけるポイントを理解できたことで、自立して課題に取り組み、完成させることができるようになった
- 学習を深めるための基本的な過程をふまえて指導することで、肢体不自由による不利を周囲の援助によって補いながら学ぶ姿勢を身につけることができた

本事例から学ぶ ICT 活用のポイント

自立活動の取組で、読みやすい文章を作成することができるようになり、教科の学習においてもタブレット型端末の活用を進めていくことが期待される。また、文書作成以外の取組でもタブレット型端末を積極的に活用していくことで、学習や生活をより充実したものにしていけることができる。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 肢体不自由教育研究班

本事例は、令和3年度「肢体不自由教育研究班」基礎的研究活動に基づいて作成されたものです。

事例提供者：谷口 公彦（香川県立香川西部養護学校）

※事例は前任校（香川県立高松養護学校）での実践に基づくものです。